５．信濃川流域における景観名所の抽出

5.1 評価と提言

1）大熊孝氏（新潟大学工学部教授）

河川に携わる土木工学者として、治水・利水を始めとし、信濃川がどのように使われていて、どのように変化したかについてなど、川と人との係わり合いに重点をおいて、信濃川下流域の 36 景案から８景を抽出すると次のようになった。

1. 万代橋と長生橋…万代橋は川の景観を意識した土木構造物として高い評価を得、重要文化財化が決定した。信濃川にかかる橋の中で万代橋同様古い歴史をもち、景観的にも評価の高い長生橋は次の重要文化財化の動きがある。
2. やすらぎ堤…新しい発想での治水と親水を融合させた施設といえる。
3. 角田・弥彦の遠景…小阿賀野川の合流点と中ノ口川の合流点の間は、弥彦、角田山に平行して流れている信濃川が向きをかえ、船から弥彦山、角田山を見ることができる。
4. 大郷橋周辺…橋の付近に寺の屋根を見ることができ、信濃川を交通網として利用していた頃の歴史をうかがうことができる。また、この付近の梨は大郷梨といわれ有名であるが、堤外地を利用した梨畑の梨の花の美しさに人の営みの景観への寄与を見ることができる。
5. 大蛇行…信濃川が大蛇行している箇所は、自然の雄大さを感じることができ、自然の営力の証といえる。
6. 大河津分水…日本の治水の象徴
7. 馬越島…人の営みがあるとともに、川幅が広いことにより土砂が堆積して中の島ができるという自然の営みも読み取ることができる。
8. 水道公園…新潟の上水道利水の原点

2）五百川清氏（大河津資料館長）

信濃川下流域の治水、利水の歴史や生活、文化などの観点から、信濃川や信濃川付近に作られた構造物と歴史の痕跡を中心に信濃川下流域の八景を選ぶと次のようになった。

1. 朱鷺メッセ（万代島）…万代島の利活用の延長で長い歴史の上に成り立っている。
2. 万代橋…信濃川の歴史的景観の象徴の一つ。
3. 関屋分水…分水路の歴史が長いとともに周囲に伝承や歴史が豊富にある。
4. 中ノ口川合流点…大野付近には川湊があった。
5. 小阿賀野川合流点…小阿賀野川合流点には酒屋湊があった。酒屋湊は信濃川と阿賀野川をつなげる中継地点の湊として栄えていた。
6. 大河津分水…新しくなった新洗堰や可動堰の歴史に加え、信濃川の原風景ともいえる広い水面が残っている。
7. 大蛇行部…左右両岸にヤナギなど人の手があまり加わっていない自然景観が残っている。
8. 長生橋…歴史のある橋であることに加え、周辺にはかつての河岸などの歴史が豊富に残っている。

3）栗原道平氏（信濃川ウォーターシャトル㈱代表）

舟運事業者として、信濃川流域における景観名所を挙げてみます。5 年前から実際に下流部で水上バスの運航を行ない、一昨年所有船が 2 隻になってからは、冒険的な航路探索も行なうことができるようになったことから、長岡大橋手前まで航行した実績があります。と言っても長い信濃川流域は懐が深く、四季それぞれの趣もあって、まだ隠れたスポットがあるかも知れません。それでは、下流から

１．工業用水組合の桜（やすらぎ堤対岸）…新潟市上所に、信濃川の水を取水し東新潟地区に立地する工場などの大規模な事業所に配水するための工業用水取水場があります。ここの桜は植えられて 40 年くらい経つのでしょうか、枝振りが見事です。桜の季節にはお花見クルーズを運航しますが、停泊して見上げる桜は最高です

２．ふるさと村桟橋とときめき橋…北陸道が信濃川を跨ぐときめき橋は、新潟市内では珍しい斜長橋です。支柱と橋桁の高さも十分にあって、なかなか均整のとれた美しいプロポーションです。ふるさと村の桟橋から見るとそれがよくわかります。

３．和田あたり…信濃川は、概ね越後平野を南から北へ流れているので、西側にある弥彦山や角田山は、上流から下ってくると、通常左手に見えるのですが、和田あたりで大きく流れが西に向きを変えるため、弥彦、角田の連山が正面に見える所があります。方向感覚が麻痺するような感じが面白いです。

４．小須戸橋上流側…ここらあたりの信濃川は、自然護岸が続き左岸側の広い河川敷は果樹園となっていたりして樹木と緑に恵まれています。平成 15 年 4 月に大河津から下ってきて、この付近ですっかり日が暮れてしまいましたが、雨上がりの空の明るさを水面が照らし、えもいわれぬ美しさでした。幹線道路沿いにあるような看板や送電線も視界に入らず、懐かしいふるさとの原風景を見ているような気がしました。

５．大蛇行…加茂市と三条市の境界付近で信濃川は 180 度近いターンを 2 度繰り返します。晴れた日に船で航行すると太陽光線の差込みが、方向を変えることでＳ字型蛇行を実感できます。ここらあたりの両岸は、春には桃の花が咲きピンクの花園となります。残雪を抱いた粟ヶ岳や守門岳もきれいに見えます。

６．信濃川と中ノ口川分流点…信濃川と中ノ口川が分流するあたりは、広大な越後平野を象徴するような雄大な

水郷の風景が広がります。蒲原大堰と中ノ口水門がそれぞれ設けられており、治水の営みを想起する風景です。

７．大河津分水新洗堰閘門…御影石を張った立派な閘門。この閘門により４～５ｍの水位差を越えて船が往来することができます。このような大きな水位差を体験できる閘門は、我が国でも稀と思います。

８．長岡市北方…大河津分水上流側の信濃川は、川幅が最も広くなっており、大河の風格を漂わせています。緑の里山を望み、ところどころに巨木もあって昔の木下恵介の映画を思わせるような、素朴で懐かしい風景です。（実際の木下映画は、信濃川の上流、千曲川で撮影されたものが多いのですが）と 8 箇所を挙げてみました。実際に船で旅することをお奨めします。

信濃川舟運八景（案）

栗原道平氏（信濃川ウォーターシャトル㈱代表）案

1．　工業用水組合の桜（やすらぎ堤対岸）
2．　ふるさと村桟橋とときめき橋
3．　和田あたり
4．　小須戸橋上流側
5．　大蛇行
6．　信濃川と中ノ口川分流点
7．　大河津分水新洗堰閘門
8．　長岡市北方

大熊孝氏（新潟大学工学部教授）案

1.　万代橋と長生橋。
2.　やすらぎ堤
3.　角田・弥彦の遠景
4.　大郷橋周辺
5.　大蛇行
6.　大河津分水
7.　馬越島
8.　水道公園

五百川清氏（大河津資料館長）案

1.　朱鷺メッセ（万代島）
2.　万代橋
3.　関屋分水
4.　中ノ口川合流点
5.　小阿賀野川合流点
6.　大河津分水
7.　大蛇行部
8.　長生橋

5.2 八景の概念

中国湖南省の瀟江（しょうこう）と湘江（しょうこう）と呼ばれる川が合流して洞庭湖に注ぐあたりを”瀟湘（しょうしょう）”という。その景勝八カ所を北宋の文人画家宋迪（そうてき）が画題として選んだことから「八景」は始まったといわれている。

日本ではこの八景にならって、足利の末期に近江（現在の滋賀県）の琵琶湖の西南岸に「近江八景（おうみはっけい）」が生まれ、これをまねて各地で八景が誕生したと伝えられている。

※安藤広重の浮世絵「近江八景」（滋賀県工業技術総合センターホームページに掲載）

http://www.shiga-irc.go.jp/shiga/hakkei/index.html

5.3 信濃川の景観名所八景候補の抽出

先に選んだ三十六景から先の基準により信濃川八景を抽出した。

ただしこれは舟運観光的視点と景観的視点から見たポイント抽出である。

瀟湘八景	信濃川八景	地点	景観ポイント
瀟湘夜雨	万代橋夜雨	新潟市万代橋	霧や雨に浮かぶ万代橋は夜が似合う
遠寺晩鐘	大郷晩鐘	白根市大郷	大郷のお寺の屋根が印象的である また季節には岸辺の桃や梨の花が楽しめる
遠浦帰帆	河口帰帆	新潟市万代島	河口や万代島周辺の船の行き交う様子は都市と港の風景を楽しませてくれる これに加えて朱鷺メッセや新潟市旧税関と歴史博物館など岸辺の魅力は多い
山市晴嵐	山島晴嵐	加茂市山島新田	信濃川が 360 度蛇行している 両岸は桃、梨畑があり、下流には保明新田の川湊があった。
洞庭秋月	馬越秋月	見附市・与板町馬越島あたり	このあたりは川幅の広く島があり、大きく広がる静かな水面に月が写る
平沙落雁	小阿賀落雁	新津市小阿賀野川	小阿賀野川は水鳥も多く、岸辺の自然豊かな風景とともに楽しめる
漁村夕照	弥彦夕照	新潟市和田～酒屋	弥彦山に落ちる夕照は昔から蒲原地方の人々が西方極楽浄土を見ていたといわれている 酒屋は信濃川下流有数の川湊であった
江天暮雪	越嶺暮雪	分水町大河津ほか	粟ヶ岳や守門岳をはじめとした越後の山並みの雪が夕日に映える様は見事である

以下図面に位置及び写真を落とし込む。

信濃川舟運八景マップ

⑤小阿賀落雁

⑥山島晴嵐**

馬越秋月***

越嶺暮雪*

①河口帰帆

③弥彦夕照*

②万代橋夜雨*

④大郷晩鐘

*　「信濃川」弓納持福夫写真集　新潟日報事業社
**　「信濃川下流写真集」
***　「信濃川下流域紀行」
（社）北陸建設弘済会　より抜粋

６． 景観の活用方法と課題

「今後の課題と活用」

今回の調査結果から以下に今後の課題と活用を整理する。

信濃川の下流部は平野部を流れるために平坦な風景が続き確かに単調であるかもしれない。しかし川辺の畑や集落の風景は新潟の典型的な田園景観であり、四季折々の風景の変化や遠方の雪山と近景の桜、夕日の景観などの取り合わせは十分に魅力的である。しかし問題は堤防が高いために、船上からは堤内地の風景が見えないことである。これは堤防以上の視点の高さを確保するためにはもっと田坂のある舟を就航させなければならないが、現状では橋の桁下が低いために不可能である。堤外地の魅力は自然の柳や水鳥、果樹園の花などに限られる。したがって下船して風景を楽しめる川港とポイント整備が必要であろう。ポイントとしては先の八景や抽出した三十六景などが候補に上げられるが、時間的には飽きる時間も考えて 1 時間に 1 箇所ぐらいのポイント整備も検討に加えたい。また新潟長岡間には閘門が 3 箇所あり、それぞれ時間が 30 分から 1 時間ほどかかる。したがって今後は待ち時間の間に上陸して休憩できたり、風景を楽しんだり、食事ができるようなポイント整備も考慮したい。

船上での演出としては景観を楽しむだけでなく、それに彩りを加えるべく、景観ポイントやいわれ・魅力などを盛り込んだ「信濃川景観ガイドマップ」を作成したい。そのようなポイントは船内アナウンスによる紹介も必要であろう。

季節的な魅力や時間的魅力もアピールしたい。色調がモノトーンになる雪景色は、区間が長くなくとも楽しめる。いわゆる越後の雪景色を楽しむ雪見の船としてアピールできるであろう。また、春の花の時期には桃や梨の花、菜の花、チューリップなど球根類の花の風景など色調が豊かな季節になる。夏から秋にかけては田園の緑一面から黄金に変わっていく様が楽しめるし、この時期の黄昏がすばらしい。これは現状のままでも楽しめるが、「今の見頃カレンダー」や「見頃マップ」などそれを演出しアピールする手法が必要であろう。また川べりの景観的魅力の背景としての町や村の人々の生活とのつながりも必要であろう。その地の産物や風景の魅力も人々の生活と一体であり、そのつながりを大切にしたい。またその地の人々と船旅をする人との交流やふれあいができる場を整備していくべきであろう。

船以外の交通手段との組み合わせも考慮すべきであろう。自家用車のほかには、バスや鉄道などとの接点が少ないために川に近づきづらくなっていることも事実である。また自家用車にしても駐車スペースが必要でありその対応も考えたい。ほかに自転車との組み合わせなどもあるので、ポイントにはレンタサイクルなども検討すべきであろう。

今後ポイント整備を進めていく場合には各市町村との連携が必要であり、行政との協力や魅力作りへの理解を求めていく必要がある。したがって本調査で得られた成果を国はじめ県の関係機関や各市町村関係者に伝えていく必要がある。

「信濃川八景舟運観光への展開へ向けて」　　栗原道平（舟運観光調査研究会代表）

信濃川はかつて輸送の大動脈であり、北上川や利根川、淀川などと並んで我が国で最も河川舟運が発達していたところです。その痕跡は、まだ流域のいたる所で見ることができますが、観光開発という視点から見た場合、ほとんど未着手であり、ゼロから始めなくてはならないと思われます。

かつての主要な川湊を復原したり、現代の旅客船やカヌーイストが、手軽に水や食料補給、燃料補給ができるようなポイントを何箇所か設けることなどが必要と考えます。

また、新潟市内の信濃川水門から上流の橋は、橋桁の高さが高いため、ある程度の大きさの船の航行が容易ですが、新潟市内の橋が総じて低いため、船の大きさに著しい制限が生じます。船旅を楽しむためには、船室屋根の上の展望デッキに人が立っていられることが望ましいのですが、新潟市内ではそれができないのが残念です。そればかりか信濃川水門に隣接する本川大橋では、船の航行クリアランスをとること自体が難しくなっています。橋桁の高さは水面から５．５ｍはとるようにして貰いたいものです。

平坦な新潟平野を川下りしても、とりたてて景色が良いわけでないのではないかと思われている方もいらっしゃいますが、決してそのようなことはありません。看板と送電線の無い田園風景と緑豊かな水辺が連綿と続く様は、大変美しく貴重なものに思われます。さらにこだわって看板を徹底的に排除し、美しい水辺景観の形成に努力することによって立派な観光地となり得ると考えます。但し、水質を改善するという別の地道な努力も必要と思われます。流域人口の比較的多い信濃川の水は、流れが緩やかになる五反田橋から下流において、濁りが目立つようなります。山地で激しい降雨があると、川の水は必ず茶色に濁ってしまいます。水がきれいであることは船旅を一層楽しいものにしてくれます。

観光が成り立つ要件のひとつに歴史的要素というものがあると思います。信濃川の舟運には、確かな歴史的背景が存在します。また治水という観点から見ても、大河津分水という近代土木遺産にも恵まれています。信濃川舟運観光は、従来の川下り観光とはまったく異なる舟運観光として光り輝く可能性を秘めていると考えます。